

2024年の記録

おかげさまで桜設計集団は設立25年を迎えました。
 これまで大変お世話になりました。
 これからもたくさん精進してまいります。
 今後ともどうぞよろしくお願いたします。

- 1999年12月 世田谷区桜にて桜設計集団を安井昇が1人で始動
- 2005年12月 代々木レジデンスにてシェアオフィス始動
- 2012年5月 代々木パレスにてシェアオフィス始動
- 2014年8月 八ヶ岳の秘密基地の土地取得・設計開始
- 2017年1月 京都・延寿堂ビルにてシェアオフィス始動
- 2017年5月 八ヶ岳の秘密基地が完成・始動
- 2024年12月 おかげさまで桜設計集団設立25年



八ヶ岳の秘密基地本

未来へ

2014年に長野県富士見町の小高い丘に300坪の土地を譲ってもらって始動した八ヶ岳の秘密基地。その当初から写真家・川辺明伸さんに「つくる・つかう・つなぐ」をテーマに写真を撮り続けてもらう。自分たちが良いと思うことを記録に残し、周囲に伝えることが重要と思い、その写真と八ヶ岳の秘密基地10年の軌跡をまとめた本を、村上幸枝さん、川辺明伸さん、八坂麻里子さんと一緒に製作中。毎月一度の打合せも間もなく20回目。完成は近い。



NPO法人team Timberize

普及啓蒙

3月に木造先進県の高知県への中大規模木造建築の視察ツアーを企画。毎年行っているが、次から次へと新しい木造建築が登場し、見る者を飽きさせない魅力がある。また、9月には、2016年に2度の震度7の地震を経験した熊本県へ。木造による「震災復興」、「アートポリス建築」、「熊本の木」をテーマとした2泊3日の視察ツアーを企画。NPO法人モクラボ九州人との共同企画で約40名の木が好きの人達と熊本の建築と食と文化を堪能する。



日経アーキ連載とセミナー

普及啓蒙

全18回の日経アーキテクチャ連載「実例に学ぶ防火の勘所」が完了。構造躯体の耐火要件を決める、建築基準法第21条(倒壊抑制)、法第27条(避難安全)、法第61条(市街地火災抑制)をどのように読み解くかが中大規模木造の設計の鍵となる。法令に適合させながらさらに火災安全性の余裕度を持たせた設計事例を抽出。また、「中大規模木造を極める 2日間 徹底講座」も8年目を迎え、毎年の法令改正に対応しながらさらに内容を充実させた。



木造口準耐火建築物1号

技術開発

木造による耐火構造が2000年の法令改正で可能となり、口準耐火建築物1号(外壁耐火構造)を純木造でつくるのが法令上、可能となった。しかし、耐火構造外壁と室内梁や基礎・屋根との取り合い部について、耐火構造外壁内部への延焼防止措置が困難で技術的には実現が難しかった。JBN・全国工務店協会らと4年に渡る技術開発を続けてひとつの解が準備できた。地味だけど、丁寧な技術開発の一つ一つが建物の火災安全性を確実に向上させる。



みんなで火育・木育

普及啓蒙

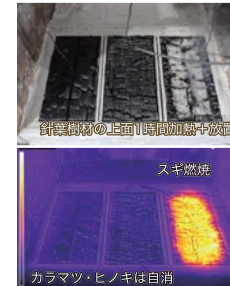
毎年恒例、八ヶ岳の秘密基地での「火育・木育」イベント。10月は岐阜県立森林文化アカデミーの先生・生徒12名と、焼杉づくり、かまどでご飯、CLTトーチで焼き魚と、裸火を使って、「どこまでなら安全、ここから危険」を体感する。また、CLT階段を使って、雨係り部分と軒の出で雨に濡れない部分の段板の腐り具合をキノコの生育加減で観察。水に濡れなければ屋外でも長持ちすることを実感。11月も毎週末、たくさんの方が来基地。



木材あらし耐火構造

技術開発

木材は外部から加熱を受けると表面に着火するがすぐに炭化層(断熱層)を形成する。そのため、加熱時間が短く、加熱面が小さいほど燃焼継続しにくい。この性質を利用して、木材あらしの耐火構造部材の技術開発支援を行う。日本木造住宅産業協会が30分耐火構造屋根、日本WALC協会が30分耐火構造外壁の大臣認定を取得し運用が始まる。マニュアル講習会の受講等が必要だが、誰でも使える大臣認定として位置付いたことが新たな一歩。



自主研究部活動

技術開発/未来へ

人に個性があるように、木材も樹種、規格(製材、集成材、LVL、CLT等)などが違えば、燃え方も異なる。従来、着火温度が低く、内部への燃え進みが早いスギ集成材で実験しておけばどのような樹種、規格でも性能を包含できるとされてきた。言い換えれば、樹種を限定すれば新たな可能性があるということだが、樹種ごとの系統的な研究は多くない。木材の消え方に興味をもって、ひたすら燃やし続けて3年目、技術が実用化されてきた。



大人の遠足・佐渡

学び/未来へ

毎年恒例のシェア事務所のメンバーと仲良し仲間たちによる大人の遠足。今年は世界遺産指定直前の佐渡へ。地元新潟の設計事務所の清水徹さん、新潟出身の小幡友子さんの案内で深く・濃い2泊3日の佐渡を体感。400年続いた金山の歴史、宿根木の工が凝らされた木造建築や集落、各地で地球の地殻変動を目で見て感じる事ができる佐渡を企画。来年はしなみ街道、愛媛への遠足を企画。地元の方と一緒にいかがでしょうか。



海外木造視察

学び/未来へ

3月に台湾の東海岸、8月にナポリ・フィンランド・エストニア、10月にもう一度、フィンランド・エストニア・ラトビア・リトアニアの建築と街並みを視察。台湾では日本統治時代の日式木造建築、北欧では最新の中大規模木造建築とアールト建築を視察。地元の材料を使い、外部の自然を取り入れた建築に日本との共通点を見つける。一方で、地震や台風がほぼなく、寒すぎで腐朽菌が少ない国の木造建築の参考になる部分と学んだ。